

ニュー・チャイナ・ファンド（資産成長型）

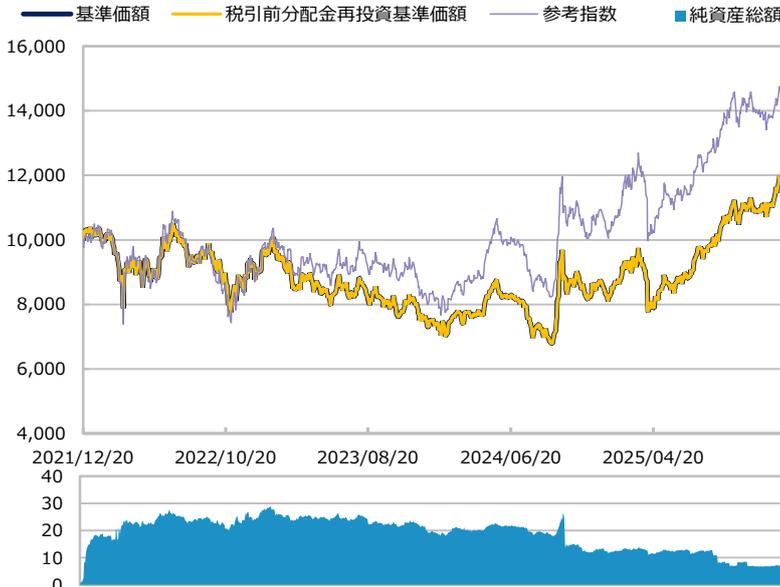
【投信協会商品分類】 追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年01月30日

ファンド設定日：2021年12月21日

日経新聞掲載名：チャイナ成長

基準価額・純資産総額の推移（円・百万円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
 - 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。
 - 参考指数は、MSCIチャイナ・インデックス（円換算ベース）です。ファンド設定日前日を10,000とした指数を使用しています。
- 詳細は後述の「ベンチマークまたは参考指数に関する注意事項」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	11,715	+705
純資産総額（百万円）	7	+0

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド	参考指数
1 カ月	2025/12/30	6.4	5.1
3 カ月	2025/10/31	5.3	0.5
6 カ月	2025/07/31	20.1	15.1
1 年	2025/01/31	35.4	35.3
3 年	2023/01/31	19.1	44.2
設定来	2021/12/21	17.2	44.6

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第1期	2022/10/20	0
第2期	2023/10/20	0
第3期	2024/10/21	0
第4期	2025/10/20	0
設定来累計		0

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（%）

	当月末	前月比
株式	95.6	+0.3
H株	21.5	-0.8
レッドチップ	1.0	+0.1
香港その他	51.9	+1.3
上海・深センA株	17.1	-0.5
上海・深センB株	0.0	0.0
その他	4.1	+0.1
リート	0.0	0.0
A株連動債券	0.0	0.0
先物等	0.0	0.0
現金等	4.4	-0.3
合計	100.0	0.0

運用概況

当月末の基準価額は、11,715円（前月比+705円）となりました。

また、税引前分配金を再投資した場合の月間騰落率は、+6.4%となりました。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。

※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



ニュー・チャイナ・ファンド（資産成長型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年01月30日

市場動向

MSCIチャイナ・インデックス



当月騰落率：4.9%

円/香港ドル (円)



当月末：19.7 前月末：20.1 騰落率：-2.2%

- ※ FactSet等のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。
- ※ インデックス等は注記がある場合を除き、原則として現地通貨ベースで表示しています。
- ※ 為替レートは一般社団法人 投資信託協会が発表する仲値（TTM）です。

基準価額の変動要因 (円)

	計	インカム	キャピタル
株式	+957	+3	+954
リート	0	0	0
A株連動債券	0	0	0
先物等	0	0	0
為替	-235	-	-
分配金	0	-	-
その他	-17	-	-
合計	+705	+3	+954

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

組入上位5通貨 (%)

	当月末	前月比
1 香港ドル	74.4	+0.6
2 中国元	12.4	-0.3
3 中国元(オフショア)	4.7	-0.1
4 台湾ドル	2.4	+0.3
5 アメリカドル	1.6	-0.2

組入上位10業種 (%)

	当月末	前月比
1 メディア・娯楽	24.7	+2.2
2 一般消費財・サービス流通・小売り	11.5	+1.5
3 資本財	9.0	-0.3
4 保険	8.7	-0.2
5 銀行	7.3	-0.9
6 テクノジ・ハードウェア・機器	6.2	-0.1
7 耐久消費財・アパレル	4.9	-0.2
8 医薬品・バイオテクノロジー	3.9	+0.2
9 エネルギー	3.8	-0.1
10 素材	3.5	+1.6

※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



ニュー・チャイナ・ファンド（資産成長型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年01月30日

※ このページは「ニュー・チャイナ・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

<市場動向>

香港株式市場（中国関連株）は上昇しました。

中国の2025年の工業部門の企業利益が好調と伝えられたことや、中国人民銀行（中央銀行）が中国本土と香港の金融市場の連携を強化すると表明したこと、不動産開発業者に対する融資要件緩和の動きなどが好感されました。また、半導体子会社が上場するとの観測で百度（バイドゥ）が上昇するなど、大手IT関連の銘柄の上昇も押し上げ要因となりました。

<運用状況>

引き続き、構造的な成長ドライバーを抱え、景気変動にかかわらず持続的な成長が見込まれる銘柄を中心とした運用を行いました。

1月は、主に金や銅、亜鉛などの鉱物資源の採掘、精錬、販売を手掛ける紫金鉱業や、輸送用機械・物流大手で、データセンターのバックアップ用ディーゼルエンジンなど発電関連事業からの収益貢献が見込まれるウェイチャイ・パワーを購入しました。一方、親会社へのライセンスフィーの支払い増加が収益性を圧迫するとの懸念からMGMチャイナを売却しました。また、中国の規制当局が独占禁止法違反の疑いで調査を開始したことを発表し、業績見通しの先行き不透明感が高まったトリップ・ドット・コム・グループを売却しました。

<市場見通しと今後の運用方針>

世界の株式市場は、米国による関税率の緩和や減税に伴う楽観的な見方は既に織り込みが進んでおり、株式市場は当面新規材料に乏しく、上値の重い展開となりそうです。ただし、年央に向かって、財政投入による景気押し上げ効果に加えて、企業業績の堅調さが続くとの見方から、徐々にレンジを切り上げる展開を予想します。

香港など中国の株式市場は、貿易協議などを巡る不透明感が残るものの、中国人民銀行による金融緩和の継続や消費刺激策などの政策支援、新興国向けを中心とした底堅い輸出、テクノロジー産業への投資や生産拡大などが中国景気を下支えすることなどから、緩やかな上昇基調が持続するとみています。

今後の運用方針としては、引き続き、中国で事業展開している企業のうち、競争力のあるエクセレント・カンパニーへの選別投資を進めます。中でも構造的な成長ドライバーを抱え、景気変動にかかわらず持続的な成長が見込まれる分野の優良企業をポートフォリオの中核とする方針です。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



ニュー・チャイナ・ファンド（資産成長型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年01月30日

ファンドマネージャーコメント

＜ディープシーク登場から1年、中国のAIの性能は世界トップクラスに＞

中国の新興企業ディープシークが対話型AIモデルを市場投入してから約1年が経過しました。発表当時は、その性能の高さと同時に圧倒的な開発コストの低さが市場に衝撃を与え、チャットGPTの生みの親である米オープンAIに半導体を供給する米エヌビディアの株価は急落しました。ディープシーク創業者の梁氏は一夜にして中国の民営企業の星となり、2月には習近平国家主席も出席した民営企業座談会に招かれました。梁氏の座席は習氏を含む党指導者と相対する最前列に与えられるなど、創業して間もない新興企業にもかかわらず、ファーウェイやテンセント、BYDなど名門民営企業と同列に近い扱いでした。AI関連企業の快進撃はディープシークに限った話ではありません。IT大手の出資などを受けたスタートアップから複数のユニコーン企業が次々と誕生しており、それまで米国中心だったAI業界の勢力地図は大きく塗り替えられつつあります。

ディープシークの登場から1年、中国のAI企業への評価は高まる一方です。中国では、政府主導の強力なAI戦略のもと、世界最大級のAI人材の蓄積が進み、論文や特許の出願数では世界トップクラスとなりました。また、中国のAIは、ソフトウェアの技術情報が公開され、誰でも自由に利用・変更・配布できるライセンスのもとで提供されるオープンソース型が主流となっています。ディープシークのみならずアリババなどのIT大手もオープンソース型AIの公開を増やしており、多くの技術者がモデルの改良に携わることで、この分野での性能は加速度的に高まりつつあります。AIの性能を評価する各種団体・機関が発表するランキングなどを見ても、米国勢との性能格差が着実に縮まっていることを示すデータが増えています。

中国とAIとの関連でさらに注目すべきなのは、AIの社会実装が急ピッチで進んでいることです。2024年の調査結果ですが、日本の総務省が公表した2025年の情報通信白書によると、中国の生成AIの個人利用率は81.2%と、米国の68.8%やドイツの59.2%、日本の26.7%に比べて頭一つ抜けています。企業の業務利用率も、中国は95.8%と、米国の90.6%、ドイツの90.3%、日本の55.2%を上回る水準です。普及率拡大のスピードはかつての自動車やインターネット、スマートフォンなどに比べて格段に速く、すでに国民の誰もが普通にAIを使いこなすステージに入っていると言えます。また、AIモデルの性能を支える半導体の国産化が急ピッチで進んでいることも中国の存在感向上に寄与しています。米国からの半導体供給が難しくなったことで、中国では自国での技術開発が一層活発になり、結果的に技術力を高めることになりました。

(運用部 上原義信)

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



ニュー・チャイナ・ファンド（資産成長型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年01月30日

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 45）

銘柄	市場/業種	比率	コメント
1	アリババ・グループ・ホールディング 香港 一般消費財・サービス流通・小売り	9.2	中国のインターネット通販最大手。個人間取引を仲介する淘宝网（タオバオ）と、企業と個人間の取引の場である天猫（Tモール）の運営を中核とする。インターネット関連企業・事業等の買収を通じ、積極的に事業分野を拡大。
2	テンセント 香港 メディア・娯楽	8.5	中国のインターネットサービス大手。対話アプリ「微信」（日本の「ライン」に相当）やインスタント・メッセージ「QQ」で築いた膨大な顧客基盤とブランド力を背景に、ゲームやオンライン決済サービス、動画配信などを展開する。
3	平安保険 H株 保険	7.2	1988年に深セン市で創業した民営企業であり、主に生命保険事業のほか、損害保険、銀行事業も手掛ける。フィンテックやヘルスケア事業にも積極的に投資しており、次の成長の柱として期待される。
4	中国建設銀行 H株 銀行	6.2	2005年に中国の4大国有商業銀行で初めて香港市場に上場した。主に企業、個人向けに貸出、資産運用などの総合金融サービスを提供するが、中でもインフラ融資分野に強みを持つ。
5	百度（バイドゥ） 香港 メディア・娯楽	5.5	中国のインターネット検索エンジン最大手。ウェブサイトの検索のほか、動画や音楽ファイルなどの検索が強味で、中国のインターネットユーザーから圧倒的な支持を得ている。AI（人工知能）技術を基盤に自動運転タクシーなども手掛ける。
6	快手 香港 メディア・娯楽	4.2	短編動画の共有アプリ「快手」を運営する。ライブ動画を配信して商品を販売するライブコマースの分野でも業界大手で、利用者数や総取引額の拡大などを背景に持続的な業績成長が見込まれる。
7	煙台傑瑞石油服務 深センA株 エネルギー	3.8	中国の原油・天然ガス掘削機械・設備の製造大手。坑井のセメンティングや破砕機械が主力で、中国のほか、北米、南米、東欧など世界各地で事業を展開する。
8	赤子城科技 香港 メディア・娯楽	3.3	中国のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）企業でゲームや交流プラットフォームなど各種モバイルアプリの開発・運営を手掛ける。海外市場の開拓に積極的で、中でも中東・北アフリカ地域からの収益貢献が大きい。
9	特步国際 香港 耐久消費財・アパレル	2.5	中国の大手スポーツ用品メーカーで、スポーツシューズやスポーツウェア、アクセサリなどの製造・販売を手掛ける。中でもランニング分野に強みを持つ。
10	台湾セミコンダクター その他 半導体・半導体製造装置	2.4	半導体の設計を自前で行わず、受託製造に特化する「ファウンドリ」と呼ばれる業態のパイオニアであり売上規模で世界トップを誇る。最先端技術への積極的な投資を行いつつ、優良顧客との強固な関係のもとで、高い収益性を実現。

※ 組入銘柄の紹介を目的としており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。また、記載内容は作成時点のものであり、将来予告無く変更されることがあります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



ニュー・チャイナ・ファンド（資産成長型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年01月30日

ファンドの特色

1. ニュー・チャイナ・マザーファンドへの投資を通じて、エクセレント・カンパニーに厳選して投資します。
 - 中国国内で事業展開している企業の中から、中長期的な運用視点に基づき、各業種毎に競争力の強いエクセレント・カンパニーに厳選して投資します。
 2. 新規公開企業にも選別投資します。
 - 中国を代表する企業の新規公開にも着目し、選別投資することにより、より高い収益確保を狙います。
 3. 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
 4. 実質的な運用はスミトモ ミツイ DS アセットマネジメント（ホンコン）リミテッドが行います。
- ※ 株式の実質組入比率は原則として高位を保ちます。
※ 中国の取引所に上場している株式の値動きに連動する証券を組み入れることがあります。
※ 資金動向、市況動向等の急変により上記の運用が困難となった場合、暫定的に上記と異なる運用を行う場合があります。景気のダウンサイドリスクやカントリーリスクに対しては、株式組入比率による調整に加え、株価指数先物などを利用することもあります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の**投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた**利益および損失は、すべて投資者に帰属**します。
- 投資信託は**預貯金と異なります**。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

【円高は基準価額の下落要因です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



ニュー・チャイナ・ファンド（資産成長型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年01月30日

投資リスク

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

特に投資先が新興国の場合、その証券市場は先進国の証券市場に比べ、より運用上の制約が大きいことが想定されます。また、先進国に比べ、一般に市場規模が小さいため、有価証券の需給変動の影響を受けやすく、価格形成が偏ったり、変動性が大きくなる傾向が考えられます。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり幅が小さかった場合も同様です。
- 人民元建の株式（上海A株、深センA株）への投資について、QFII（適格国外機関投資家）制度上の制約を受けます。また、中国政府当局により、対外収支状況などを理由として、海外への送金規制などが行われた場合には、信託財産の回金処理が予定通り行えない可能性があります。このような場合、換金に伴う支払資金の不足が予想されるため、換金の申込みの受け付けを中止することや、既に受け付けた換金の申込みを取り消させていただくことがあります。
- 上海・香港および深セン・香港株式相互取引制度においては、QFII制度と異なり、中国当局の認可が不要ですが、上海および深セン証券取引所に上場するA株のうち、取引可能な銘柄が一部の銘柄に限定されています。また、取引通貨はオフショア人民元となり、中国本土内外の人民元為替取引は完全には自由化されていないため、QFII制度の取引通貨である中国本土のオンショア人民元の為替レートの値動きとは乖離する場合があります。
- 中国国内の株式配当金および利息から得るインカム・ゲインについては10%の企業所得税が課されています。株式等の譲渡から得るキャピタル・ゲインについては、2014年11月17日以降、当面課税が免除される旨、中国国家税務総局および中国証券監督管理委員会より公表されています。将来的に上記の税金が課されることとなった場合には、ファンドがこれを実質的に負担する可能性があります。
- 中国の証券関連の法令は近年制定されたものが多く、その解釈は必ずしも安定していません。中国国内における課税の取扱いについては今後変更となる可能性があります。
- 中国政府当局により、委託会社がQFIIの認可を取り消された場合、人民元建の株式（上海A株、深センA株）への投資は株式相互取引を利用して行います。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



ニュー・チャイナ・ファンド（資産成長型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年01月30日

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

信託期間

2031年10月20日まで（2021年12月21日設定）

※2026年2月20日実施の書面決議において、繰上償還が成立した場合、2026年3月10日までとなります。

決算日

毎年10月20日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配を行います。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの対象ではありません。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

お申込不可日

以下に当たる場合には、購入・換金のお申込みを受け付けません。

- 香港の取引所の休業日

ニュー・チャイナ・ファンド（資産成長型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年01月30日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に**3.30%（税抜き3.00%）を上限**として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
換金申込受付日の翌営業日の基準価額に**0.30%**を乗じた額です。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に**年1.914%（税抜き1.74%）**の率を乗じた額です。
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等
 ※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター： 0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三井住友信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。
投資顧問会社	マザーファンドの運用指図に関する権限の一部の委託を受け、投資信託財産の運用を行います。 スミトモ ミツイ DS アセットマネジメント（ホンコン）リミテッド

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



ニュー・チャイナ・ファンド（資産成長型）

【投信協会商品分類】 追加型投信／海外／株式

作成基準日：2026年01月30日

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 投資信託協会	備考
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○	○		○		
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○			○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○		
株式会社SBI新生銀行（SBI証券仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○			○		※1 ※2
PayPay銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長（登金）第624号	○			○		

備考欄について

※1：ネット専用 ※2：委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券

ベンチマークまたは参考指数に関する注意事項

- MSCIチャイナ・インデックスは、MSCI Inc.が公表する指数であり、その指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、当ファンドを同社が保証するものではありません。

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に關し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用

